



大場洋介 議員

診療所の無床化に伴う医療対応は

大場議員 現場の実情を考え医師の確保は喫緊の課題。外来を今ままでと同様に進める上で、医療体制と地域医療機関との連携策、無床化に伴って病室の利活用として整った環境施設を併せ持つ機関としての方向性は。

対して配慮の要請をしている。障がい者福祉サービスの現状と今後の対策は

大場議員 障がい者が自立する上でグループホームの確保が重要である。最上地域には障がい者の程度により受け入れ施設等が制限される。地域機関への拡充と今後の展望を希望する方への充実を含め、共生型サービスの確保への計画は。

健康福祉課長 健常者と代わらない生活を送る事が出来る環境の提供することが重要であり、民間事業所との連携を重視し、今後、障がい者に関する計画の

町長 外来診療を現状維持する上で、スタッフを維持、医師の確保と地域医療の確立、訪問介護の強化、体制の強化、医療関係機関との協力向上に向けて最善を尽くす。医師派遣の要望書を提出し、県・中央病院にて調整を図っていた。大きな人事に

診療所無床化に伴う医療対応は

回答 医師の確保、訪問介護の強化に努める

改定段階において、内容を再検討していく。街なか公営住宅を含めた定住促進への今後は

大場洋介議員 定住促進事業が財政状況を考え先送りになっている。用地を取得し放置の状況や未来を見据えた用地の取得を懸念している。町民の声に、新築物件ではなく町内の空き家を再利用することで景観を阻害している危険空き家の減少につながる。今後の方向性、有効活用の計画は。



凍結中の定住促進住宅イメージ

環境整備課長 現時点での再開時期は未定だが、財政状況とバランスを考えて見極める。戸建住宅に限定せず長屋形式やコレクティブハウス等を含めた選択肢を考え、比較的需

要の高い単身者住宅等から建設を検討する。

大場議員 自然と調和した美しい街なみと地域の個性を進めると共に、地域産業の振興も目的とされているが、金山型住宅に該当しない家屋がみられ施策に対して温度差が生じている。PR強化計画は。環境整備課長 将来的に実りある事として継

街なみ景観100年運動促進策は

大場議員 グローバル化に伴い住宅は多様化してきている。住宅資材として木材の価値は再び高まっており、今日まで技術職人の技に支えられてきた。伝統的な木造建築を成し得る職人の存在は重要である。現場を供給し続ける事も大切と考えるが。

環境整備課長 入居者にアンケートを行い、故障や不具合箇所を確認し対応している。安心できる生活環境の提供と施設の長寿命化を計りながら、適正な維持管理に努める。

合併しない自律の町選択は、正しかったか

回答 町づくりの意欲を失わず、誤りではなかった



早坂憲明 議員

総合政策課長 平成の

早坂憲明議員 平成20年8月30日、合併した酒田市に一人で調査に行った。合併した旧町の住民の答えは、合併して一番最初に潰れるのは料亭、次に飲食店、そして、建設会社は仕事がなくなくなる。また、水道料金も高くなり、良いことは何もない。「おい金山、合併はするんじゃないぞ」と尻を叩かれて帰り、合併に反対をした。我が町は、合併しないで自律の町づくりを選択したが、正しかったのか。

大合併、第一号の兵庫県丹波篠山市の市長は、「合併すれば、これまで出来なかつたことが、特例債を使ってもできると錯覚していた。人口は減少し、施設整備による財政負担の後始末が残った」と述べている。マスクミでも、いくつかの自治体が「平成の大合併は失敗だった」「周辺部が衰退した」と報道している。「金山らしい町づくりに対する意欲や誇りが失われてはいけない」という方向性は、誤りではなかったと捉えている。



自律の町づくりの主体は町民！

今後のあるべき町の姿を

早坂議員 町長として自律の町づくり12年間手がけてきた経験から、今後のあるべき金山町の姿を描いているものがあれば聞きたい。

町長 最上8市町村それぞれ個性のある自治体である。その中で共通できるもの、できないものなど分野を検討していくことも必要と

考えるが、主役は、町民である。

坂方面へ逃げることになるが。

自然大災害時の対応策は

早坂議員 全戸配布されたハザードマップは、避難場所が明確でないという指摘もある。

想定外の大雨や大地震の場合は、国道と高速道が水止め堤防となつて逆効果を果たすため、上台地区民は、赤

地区と協議しながら避難経路も含めた避難所のあり方を見直していく。



突然襲ってくる災害